

人文社会科学研究科 博士後期課程 経済経営専攻

養成人材

企業、組織、社会が直面している諸課題について、自立的な調査研究を遂行し、アカデミックな理論と接合して、自ら政策提言を行う高度専門職業人、博士の学位を有する社会人の育成を教育研究上の目的とする。

学位授与の方針

人文社会科学研究科（博士後期課程）では、博士前期課程の目的に加え、問題把握能力に優れ、広い視野と総合的な判断力を備え、新しい知を創造できる自立した研究者としての能力を有する高度専門職業人を育成するため、所定の教育課程を修め、専攻ごとに求める以下の能力を身につけた者に博士の学位を授与する。

（経済経営専攻）

- (1) 企業、組織、社会が直面している諸課題について、自立的な調査研究を遂行する能力  
 (2) 経済・経営・行政についての理論と実務を融合し、自ら政策提言を行う能力

教育目標

- 1 経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得する  
 2 経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得と、それを応用・総合する能力を修得する  
 3 課題設定・自己解決能力および独創的な思考力を修得する

年次	科目	到達目標	教育目標 1	教育目標 2	教育目標 3
1、2、3	言語メディア論特論	書き言葉と話し言葉の差異についての研究を概観し、両者のメディアとしての違い、ならびに両者の定量的な差異を理解する。	○	◎	
1、2、3	経営倫理特論	▶ コンプライアンスの現状と課題を理解すること（以下は昨年度の授業科目の到達目標：「企業倫理」「経営倫理」とも訳される "Business Ethics" の古典として広く知られる『ニコマコス倫理学』（京都大学学術出版会、2002年7月1日）の輪読を通じて、企業人としての倫理について考える。）	○	◎	
1、2、3	産業組織論特論	ゲーム理論を取り入れ、契約理論を中心とする新産業組織論のロジックと限界について理解する。	○	◎	
1、2、3	開発経済学特論	途上国の二重経済モデルを1つのシステムとして理解し、都市部と農村部間の労働移動のメカニズムを、ハリス＝トダロー・モデルを通じて理解できる。また、スティグリッツの所謂ターン・オーバー・モデルを精査し、制度的な最低賃金が存在しない状況でも賃金の下方硬直性が出現することを理解できる。	○	◎	
1、2、3	計量経済学特論	関連する文献を輪読、あるいは、テーマに沿った内容を参加者で議論します。	○	◎	
1、2、3	産業連関分析特論	本講義では、I-O分析の理論を把握し、その多面的応用を検討することによって、I-O分析への理解を深める。	○	◎	
1、2、3	金融論特論	近年公刊された学術誌を読み、理解し、自身の研究分野の先端を知る。	○	◎	
1、2、3	財政学特論	ベーシックインカム論を吟味することを通じて、財政及び社会政策を考察するために必要な知見を深める。	○	◎	
1、2、3	地方財政論特論	履修者が地方財政に関する様々な問題について考えることができるようになることを到達目標とする。	○	◎	
1、2、3	政治経済学特論	恐慌論研究を理解する。	○	◎	
1、2、3	経済学史特論	・ 経済学の古典や研究論文を正確に読む能力を身に付ける。 ・ 経済状況や社会思想と経済学との関係に理解する。	○	◎	
1、2、3	労働経済論特論	・ 経済状況や社会思想と経済学との関係に理解する。	○	◎	
1、2、3	日本経済論特論	日本経済およびその政策課題に関する重要文献を講読・討議することにより受講生各自の研究に生かす。	○	◎	
1、2、3	経済政策論特論	実際に講じられている経済政策が、経済学で学ぶ経済理論とどのように関連付けられるかを理解できる力を身に付ける。また、経済政策の課題を自ら発見しその対応策を考察できる力や政策をめぐる議論を客観的に評価できる力を身に付ける。	○	◎	
1、2、3	日本経済史特論	近代以降の日本経済のあゆみや経済発展の特徴について理解を深める。	○	◎	
1、2、3	国際経済論特論	The class has the following objectives: 1) Students will be able to understand selected international trade models via simple mathematic derivation as well as graphical illustrations. 2) Students will be able to grasp deep understanding of numerical values to explain the solution of the international trade general equilibrium.	○	◎	
1、2、3	国際公共政策特論	様々な公共政策の分野の中でインフラストラクチャーを取り上げます。経済の基盤となるインフラストラクチャーについて、グローバルな視点から政策、背景となる理論を学び、課題を分析し政策提言が行える力を身に付けることが目標です。	○	◎	
1、2、3	アジア経済論特論	アジア経済・社会の変化に関する最新研究文献・論文の内容の理解、批判的考察	○	◎	
1、2、3	経営管理論特論	利益を生む仕組みについて明らかにする	○	◎	
1、2、3	経営戦略論特論	経営戦略論について、先端的な研究を理解することができるようになる	○	◎	
1、2、3	国際マーケティング論特論	〔1〕 企業の世界展開のために行っている自身の経営資源と、自社が世界において直面する外部環境を見極めた上で、どの市場を標的とし、どのような方法で参入するのかということを理解し、企業が配置した拠点間の連携（グローバル統合・調整）を行っていくことに関する基本的概念を説明できるようにすること。 〔2〕 本授業では今日の企業のグローバルなマーケティング活動を考察し、そこから実践的な諸課題について自ら考察できるようにすることを授業の到達目標とする。	○	◎	
1、2、3	サプライチェーン・マネジメント特論	受講者が、サプライチェーン・マネジメントに関する理論を理解し、それを用いて実際の経済現象や企業戦略を分析すること、そして学術論文の作成能力やアカデミック・プレゼンテーション力を養うことを目標とする。	○	◎	

1、2、3	雇用関係論特論	1. 雇用システムの作動メカニズムを理解する。 2. 雇用システムと雇用関連政策との関係を把握する。 3. 雇用システムを持続可能なものにするための方法をデザインする。	○	◎			
1、2、3	国際経営論特論	受講者が、国際経営に関する最新の研究論文、あるいは各自の論文テーマに関連する文献を分析することによって、課題論文とケースの論理の流れや分析方法を理解し、国際経営の全般的な最新のトレンドを理解することを目標とする。	○	◎			
1、2、3	比較経営論特論	テーマに関する知見を深め、各参加者の個人研究をさらに発展させる。	○	◎			
1、2、3	日本経営史特論	日本企業の歴史を知ることで、現在の企業経営について柔軟な分析視角を身につける。	○	◎			
1、2、3	管理会計論特論	管理会計について日米欧で進められている研究について、自分なりの見識を得る。	○	◎			
1、2、3	コーポレートガバナンス特論	本講義では、近年における日本企業のデータを利用したコーポレートガバナンスに関連する実証研究を読んで、コーポレートガバナンスに関する造詣を深めることを目的とする。	○	◎			
1、2、3	普及学特論	普及現象に関わる諸理論を理解し、社会を分析する枠組みを構築する	○	◎			
1、2、3	自治体行政学特論	自治体特有の総合計画の意義と個別計画を通しての中央地方関係がわかるようになる。	○	◎			
1、2、3	環境政策論特論	1. 環境政策の基礎理論や基礎概念についての知識がある。 2. 環境問題の解決のために行われている政策についての知識がある。 3. 環境問題の解決のための政策を自分で考案できる。	○	◎			
1、2、3	都市論特論	現代都市の実態を理解し、自分の言葉で都市問題を説明できるようにする	○	◎			
1、2、3	現代憲法論特論	現代の憲法問題を自ら発見し、それに関する判例学説を適切に参照し、憲法学の論理を用いて自分なりの解決策を提案できること。	○	◎			
1、2、3	経済法特論	独占禁止法および競争政策についての知見を深める	○	◎			
1、2、3	財務会計論特論	会計ルールの根底にある論理の理解を目標とします。	○	◎			
1、2、3	経営組織論特論	本授業は、大学院レベルの経営組織論の教科書Hatch, M. J. & A. L. Cunliffe (2017)『Hatch組織論』同文館出版を輪読し、経営組織論の最新の議論を学ぶことを目的とします。この教科書は、世界的に有名な経営組織論の教科書で、内容は網羅的です。受講生の皆さまの研究関心に応じて関連する内容を掘り下げたりしながらのディスカッションができればと思っています。到達目標としては、経営組織論の大学院生レベルの基本的な知識を習得することを最終目標とします。ご自身の研究テーマと関連付けて知識を習得することも併せて目標とします。	○	◎			
1、2、3	特殊講義「 」	※講義科目別に設定	○	◎			
1、2、3	金融工学特論	金融市場の分析で用いられる数学的・統計的基礎の習得と応用を学びます。	○	◎			
1、2、3	リスク・マネジメント特論	金融システムの基礎知識・論点やインセンティブ構造の理解や参加者である金融機関や企業のガバナンスの知見に基づき、金融のデジタル化やFintechの金融システムに与える影響等を分析しその意味を理解する。こうした変革期の環境認識の下でのリスク管理について検討し議論展開の実力を養成する。	○	◎			
1、2、3	現代金融システム論特論	金融システムの基礎知識・論点やインセンティブの理解をベースに、現在進行中の金融のデジタル化やFintechの金融システムに与える影響を分析するための基本的な視点を獲得する。特に、既存の金融機関とそのビジネスに対し、現在進行中のデジタル化は金融業務自体を商取引や企業・個人間の非金融取引と融合し非可視化する可能性があることの理解を獲得し、金融システムの現在進行中の変革を的確に議論できる素地を獲得することを目標とする。	○	◎			
1	特別演習Ⅰ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
1	特別演習Ⅱ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
1	特別演習Ⅲ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
2	特別演習Ⅳ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
2	特別演習Ⅴ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
2	特別演習Ⅵ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
3	特別演習Ⅶ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
3	特別演習Ⅷ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
3	特別演習Ⅸ	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
2	プロジェクト研究	専門分野の研究を遂行するための基礎となる知識と方法を取得する。		○	◎		
2	アカデミック・プレゼンテーション	研究成果発表のためのスキルを修得する		○			